

令和  
6年度

# 阪南市立相談支援センターたんぽぽ園

## 事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	阪南市立相談支援センターたんぽぽ園
○保護者評価実施期間	令和6年9月1日～令和6年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 33名 (回答者数) 33名
○従業者評価実施期間	令和6年9月1日～令和6年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 12名 (回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月1日

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は児童にわかりやすく構造化されており、障がいの特性に応じてバリアフリーや情報伝達への配慮が適切になされています。	児童が活動しやすいよう、内容ごとに空間を分けており、放課後等デイサービス・自由遊び・個別療育・遊戯室の各部屋に分けて実施しております。	児童だけでなく職員や大人にもわかりやすいよう、シンボルなどで大きな目印を作成することを検討しております。
2	個々の児童に対してアセスメントを適切に行い、児童および保護者様のニーズや課題を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成しております。	個々の児童に対してアセスメントを適切に行い、児童および保護者様のニーズや課題を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成しております。	アセスメントをしっかり行うため、時間を確保し、必要な項目について継続して情報収集に努めてまいります。
3	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日の支援内容や役割分担を確認し、チームで連携して支援を実施しております。	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日の支援内容や役割分担を確認し、チームで連携して支援を実施しております。	具体的な支援内容の把握と、児童の特性や個性への理解をさらに深めていきたいと考えております。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童が自己選択できるよう支援方法を工夫し、自己決定する力を育てる支援を行っております。	児童が自己選択できるよう支援方法を工夫し、自己決定する力を育てる支援を行っております。	個別療育と集団療育を通じて、児童一人ひとりの能力を高め、自己選択・自己決定を促す支援を行っていきたくと考えております。
2	地域の保健・医療(主治医や協力医療機関等)・障害福祉・保育・教育などの関係機関と連携し、支援を行う体制を整えております。	地域の保健・医療(主治医や協力医療機関等)・障害福祉・保育・教育などの関係機関と連携し、支援を行う体制を整えております。	現在、地域支援体制の構築は市町村主導で進められており、当事業所からの発信は少ない状況です。今後は療育施設としての運営を継続しながら、地域支援の展開にも努めてまいります。
3	放課後等デイサービス計画の作成時には、児童や保護者様の意思を尊重し、児童の最善の利益を考慮する観点から、意向確認の機会を設けております。	個別支援計画の作成時には、児童やご家族の意向を確認する機会を設けております。	放課後の児童は複数のサービスを利用しているため、優先順位がつけにくい場合があります。今後も丁寧にアセスメントを行い、児童やご家族の意向を確認してまいります。